

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームふきのとう
(ユニット名)	ふきのとう
所在地 (県・市町村名)	山形県新庄市大字鳥越字駒場4519-2
記入者名 (管理者)	小嶋早苗
記入日	平成 20 年 10 月 1 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	『その人らしく自由に・安心してゆったり・穏やかに地域と共に暮らす』という理念をホーム独自に作り上げ、サービスの提供を支援している	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念をホームの玄関と職員休憩室、職員ロッカールームに掲示し、常に職員全員の視野に入るようにし、また、毎日のスタッフミニカンファレンス時に唱和し、理念の共有に努めながらその実践に日々取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域240戸に広報誌を配布し、また、契約時の家族の方への説明と共に運営推進会議の中でご理解いただけるよう、取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	畑仕事や散歩の際の挨拶、地域の方が犬の散歩の際に気軽にホームに立ち寄っていただき、動物と接することを通して入居者の方々との交流の場ができています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	畑仕事や散歩の際の挨拶、ホームの夏祭り・芋煮会への地域行事や活動への参加など、ホーム機能を地域に開放する取り組みを通して、地域の一員としての交流を図っていく取り組みをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の独居の高齢者が孤立しないように、積極的にホーム活動への参加していただけるよう、話し合いをしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は職員全員で実施し、課題の改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議事録は入居者家族に報告している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催の地域ケア会議(年6回)や新庄市包括支援センター・新庄市福祉事務所主催で行われている(権利擁護セミナー)認知症セミナー参加や、広報誌を届けながら情報交換を行なう(年4回)など、市担当者にいつでも相談出来る体制ができています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会に参加している。また事例等の情報があると、すぐに職員全員で認識を深める努力をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加している。また事例等の情報があると、すぐに職員全員で認識を深める努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族のご質問にお答えし、十分な説明と納得していただけるよう努力している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見等は、職員で共有しており、問題解決に向けて、その都度早い対応行い努めている。また、家族への報告を行なっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者この暮らしぶりを書いたお便りに、金銭請求書を添えて家族へ送付しており、面会時も伝えている。心身に変化があった時や受診結果については、その都度電話で決め細やかに報告を行なっている。職員の異動についても報告と紹介を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に利用者の現況などを伝えながら、意見や希望が無いか確認している。苦情があった場合には話し合いを行い反映させていくように努力している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は随時管理者を通し、運営者(本社)への相談できる環境にある	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	対応可能なスタッフを毎日確保し、要望に応じて勤務を調整し、当然、時間外の対応も行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響が最大限に止められるよう引継ぎを十分に行なった上で、利用者の情報収集に努めながら、馴染みの職員が配慮しながら、職員全体で配慮できるよう努力し、支援している	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内の研修会に参加し、また外部研修の県主催研修会や県認知症GH協議会主催研修、介護福祉士会研修に参加し職員は最低2回は研修を受講している。研修報告会を行なっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協議会や最上GH連絡協議会に入会しており、情報交換を通して交流会や懇親会、勉強会に積極的に参加している。11月には最上地区GH視察見学を予定している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	可能な範囲で対応してくれている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者を通して本社に定期的に状況報告し、各自が向上心を持って働けるよう、行なってくれている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安なことや困っていることに、その都度対応し、不安を軽減し、安心してご利用できるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	謙虚に受け止め、いつでもどんな時でも相談しやすい信頼関係作りに努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望、要望に対し、必要とされる支援が行なえるよう、話し合いを行い、GHでの対応が難しい場合、その方の身体状況環境にあった事業所やサービスを紹介する等の対応に努めている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には人生のよき大先輩として接し、料理や掃除などの家事全般、畑仕事、地域の歴史、方言を教えてもらったり、昔のことを話し合ったりしながら、学ばせていただきながら、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との日々の情報交換を通して、ご相談したり、ご協力いただきながら、一緒に取り組める環境を作る努力を行なっている。また一緒にご本人を支えて行けるよう継続していきたい。		特にかかわりの少ない家族への働きかけに力を入れていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時の情報を含め、ご面会時などその都度知り得た情報を職員間で共有している。		さらに本人、家族との関係の理解を深めて、より良い関係を築いていけるように努力していきたいと考えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会や家族付き添いにての育った土地や住み慣れた場所に外出を勧めている。また、家族の協力がないと難しい現状もある		ご家族のご協力を得られるように働きかけて生きたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	馴染みのある同士、トラブルの多い同士を把握し、孤立せずに関わり合えるよう職員が間に入りながら、支えあえるように努めている		良い環境で生活できるよう日々検討している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事例として入院退居者が一名、状態悪化が心配される中で、家族が遠方に住んでいることもあり、家族・病院と連携をとりながら、毎日お見舞いし、身の回りのケアを行い、急変時には家族が到着するまでそばで看取らせていただいた。出会いに感謝し、大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、本人の希望や訴えを聞き、把握に努めている。得られた情報は介護支援計画に反映し、検討している。困難な方には、家族の希望を聞いたり日々の様子や表情からの気づきを大切にしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を元に、家族より、より詳しい生活歴を知り共有し、これまでの生活歴を尊重しながら支援できるよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	支援計画に反映される記録のほかに、日々の変化を職員個人の情報にしないように、記録の徹底。また日々の健康観察として血圧・検温・排泄チェック・皮膚観察・食事、水分摂取量の観察記録を行ない、総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の要望を聞き、職員の意見を取り入れた介護支援計画を作成している。検討会に出られなかった職員には、会議の申し送り簿で伝達して意見をもらい、全員の意見が反映されるように取り組んでいる。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一回見直しを行い、月に一回評価・点検・確認を実施した状態の変化に応じて随時の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの気付きもケースに記録するように心がけて、毎日のケア会議の中でケアの実践を通して、月一回の評価を行なっている。見直すべき部分があれば、その都度、申し送りを徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、図書館・公共施設の協力を得ながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	退居する方向の場合は他事業所情報交換・連絡を取り調整を行なっている。事例は少ない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時の連絡にとどまっている。また地域包括支援センター主催「権利擁護セミナー」協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望する医療機関に受診できるよう支援している。協力医療機関がかかりつけ医となっている場合は、職員が通院介助を行い、他のかかりつけ医の場合も、家族の不都合の時は職員が通院介助を行ない、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>事例として少ないが、専門医の受診を支援していきたいが、家族の協力が難しい現状である。</p> <p>家族の協力を求めていく</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>訪問看護ステーションとの連携をとり、電話にて、報告・指示、指導を受けている。協力医院では、必要時に気軽に相談できる関係にある。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>その都度、病院関係者との情報交換や相談をし、連携をしている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>「重度化した場合における対応に係る指針」を定めて職員全員で共有しており、家族にも利用契約時に説明している。急変の危険性がある利用者に対しては、家族、担当医師と頻繁に話し合い対応を行ってきた。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>事例として一名。利用者が終末期をよりよく暮らせるために事業所と、かかりつけ医院とともに支援に取り組んできた。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>別の居所に移り住むにあたり、ケア関係者間で情報交換を行い、居所に移った後も、情報交換を行いダメージを防ぐことに取り組んできた。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いに配慮しながら、方言を用いた会話、さりげない排泄チェックなど、居室にうかがう際のマナーに配慮し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した支援を行なっている。また、記録は事務室や休憩室で記録し、個人情報の取り扱いにも十分注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	言葉(考え)を引き出す声かけに努め、その都度、支援しながら、ゆっくりと、自分のやり方を見守っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合にならないように、心がけている。穏やかに自由に話したり、カラオケ、買い物、ドライブ、散歩をしたりしながら利用者一人ひとりの希望や生活のペースにあわせて過ごすことができるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	配慮ができています。希望のある方に関しては、家族の協力を得て希望の美容院に定期的に通えています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に、畑から旬の野菜を収穫し、調理をしたり、買い物、後片付けを行い、食事と同じテーブルで楽しみながら食べている。献立と食材は利用者の希望を取り入れ、柔軟に対応してくれる業者に依頼している。毎月一日は利用者の好物である「お寿司の日」として提供している。また、バスハイクに外出した際には外食も月に2～3回取り入れている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気や家族の意向等で、制限や管理の無い方に関しては、できるだけ、希望を叶えられるように心がけている。制限のある方に対してもほかの事やもので対応できるように心がけている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できている。オムツから綿パンツに、リハパンに変更成功している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる準備は整っており、希望に応じて入浴できることは伝えている。また併設しているサービスセンター休日に浴室を利用し、大風呂に「温泉みたいだ」と喜んでいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	できている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を生きながら、掃除、調理、畑仕事、メニュー板記入係、納品食材チェックなど、の役割、園芸活動やレクリエーション、カラオケなどの楽しみ事、また散歩や外食、ドライブ、外出などを行なって、喜びのある日々になるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金額に応じ個人で管理している人も一名いるが、基本的には、預かっている。外出や必要に応じて買い物は職員が付き添って適切に使用できるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望を考慮しながら、日光浴や散歩、買い物、外食、ドライブ畑仕事、最上川散策、最上公園、東山あじさい公園、歴史センター資料館、図書館などの外出支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として全員で出かける外出を企画したり、家族と共に出かけてピクニックを企画したり、個別にとして外食、ドライブ、買い物の機会を作ったりして、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望に応じ、その都度対応している。また時間帯などは、家族の都合に合わせて対応したり支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、家庭的な雰囲気な感じの中でゆっくり過ごしていただけるような対応を心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指して取り組んでいる。全盲、難聴の利用者がベットの柵を外す行為があり、転倒と手・足を挟む危険があるために、安全の為に、柵の取り外し部所を固定し、柵に鈴をつけて触れた時に確認できるように配慮している。その際に家族への状況報告・説明し、承諾を得て実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	全職員が鍵を掛けることの弊害を理解している。利用者の状態(徘徊や不穏時と入浴時間)が重なり、職員の介助が行き届かない時間帯には、道路が近いため、玄関と併設の出入り口の施錠を行なっている。利用者が安全に自由な暮らしを支援できるよう、検討し、定期的に話し合いを行なっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬品等刃物は鍵、はさみ、針は利用者の行かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	急変時の対応を勉強会とし実施している、急変時対応マニュアルをフロアに掲示している。		繰り返し、実践を通して勉強会を重ねていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	文書での具体的な勉強と急変時・事故発生時マニュアルの掲示をおこなっている。定期的な実践訓練には至っていない		訓練の実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜問わず、災害時の避難場所把握しているが、水害等の災害訓練は行なっていない。日頃より地域の協力を得られるように働きかけている。		水害時の訓練実施
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	できている。ケアプランに取り入れ、家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	できている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者が内服・利用している薬を把握し、個人のケースファイルに服薬説明書を綴り、常に確認できるようになっている。服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝一番に水分補給(水・牛乳・ジュース・ヨーグルト)を行い、身体内に働きかける対応している。また個別対応もできている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの歯磨き、うがい薬を使用し、口腔内の殺菌・消毒・清潔を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェック表に記録し、把握している。また利用者の体調や摂取状況に応じて、お粥、おにぎり、ぎざみ食などを提供している。食事制限のある方には、医師の指示による支援も行われている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成しており、感染症が予想される場合は、早期に対応し、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	タイヘイ食材より、新鮮な食材を前日に配達してもらっている。調理器具については、毎日消毒を行い衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花や装飾で、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼の居間にはコタツが置かれ、季節の壁画や花が飾られた共用空間は広くゆったりとしており、ホームから見える花畑には色とりどりの季節の花や野菜が植えられ、季節感を味わう事ができる。また、日中は利用者が飽きずに居心地よく過ごせるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、居間、廊下奥とそれぞれ移動できる場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたベッドなどの家具やテレビ、カセットデッキ、鏡台、ソファなどが持ち込まれ、家族の写真や小物、観葉植物や花鉢なども飾り居心地よく過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	配水管の臭いを感じられた際に早急に対応している。また、10時と15時には室温、湿度をチェックし、外気温と大きな差がないように、過ごしやすいうようにこまめに温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	必要時は付き添って対応し、自立を促している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を活用し、食物の収穫、園芸を楽しめるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

木造平屋建てのホームは家庭的で落ち着いた雰囲気があり、「利用者は生活の主体者」「職員は生活のパートナー」と考え、利用者個々の希望、能力、その人らしさを大切にしながら、園芸療法、レクリエーション、カラオケなどの心身の癒しを通じた、喜びある毎日を送る事が出来るよう支援しております。また季節を感じながら、旬の収穫を喜び、味わっています。「看取りに関する指針」に基づき、系列法人の医療機関や訪問看護ステーションとも連携しながら、利用者や家族が地域の中で最後まで安心して暮らすことができる体制がされています。またケアサービスの向上と職員の意識向上を図りながら、その人らしく・自由に・安心して・ゆったりと・穏やかに暮らせるサービス提供が行えるよう努力しています。